

山ぎわまで及ぶ集落域

江戸時代の絵図とほぼ同一

江戸時代の絵図を見ると、坂本村とされる集落は山ぎわまで家屋が描かれています。室町時代の集落規模はどの程度だったのでしょうか。

O-HARA（山口大学就職支援施設）の発掘調査

●調査面積 1333 m² ●調査期間 平成 21 年 2 月 17 日～4 月 24 日 ●確認された遺構 繩文時代：貯蔵穴

室町時代：掘立柱建物跡・井戸・土壙・溝

平成 21 年(2009)に大学会館北側の空閑地において実施した発掘調査により、室町時代(14～16世紀)と推定される複数の掘立柱建物跡や井戸、土壙、溝などが検出されました。

この地は東隣が山地となっており、江戸時代の絵図同様に、室町時代においても山ぎわまで集落が形成されていたことが判明しました。遺構の重複関係から建物は複数回にわたり建て替えられたことが分かります。

これらの調査成果により、本学統合移転前の丘陵台地の景観は、少なくとも室町時代までさかのぼる、言い換えると丘陵台地の景観は、室町時代から 500 年以上ほぼ変化することなく保たれていたことが判明したのです。この「変化のなさ」こそが吉田遺跡が良好に保たれた原因と言えます。

